

第3章

市民・事業者の 環境への取組状況

本章では、市民、事業者、民間団体、行政がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解し実行できるよう平成12年8月に設立された「かわごえ環境ネット」等の活動を紹介しています。

かわごえ環境ネットの取組

1 川越市環境行動計画の推進状況

川越市では、平成19年3月に策定した「第二次川越市環境基本計画」に基づき、平成20年1月に「川越市環境行動計画『かわごえアジェンダ21』」を市民、事業者、民間団体及び市の4者によるパートナーシップ組織である「かわごえ環境ネット」との協働により策定し、これら4者の協働により、同計画を総合的かつ計画的に推進してきました。そして平成29年2月に「川越市環境行動計画」として内容を全面的に改定しました。

一方、平成28年3月、第二次環境基本計画の計画期間満了に伴い、市は「第三次川越市環境基本計画」を策定しています。第三次環境基本計画では、「日常生活や事業活動における環境の保全・創造のために取り組むべき具体的な行動を定めた川越市環境行動計画を、第三次計画と連動するように見直すとともに推進します。」と記載しています。新しい「川越市環境行動計画」は、2015年9月に国連が採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の理念を考慮しながら、第三次環境基本計画と連動して、将来の望ましい環境像の実現に向けた市民、事業者及び民間団体の行動計画として定めたものです。第三次環境基本計画と川越市環境行動計画の2つの計画が車の両輪となり、「第四次川越市総合計画」や関連計画と整合を図りながら、将来の望ましい環境像の実現を目指します。

この計画は、「望ましい環境像が実現したときの川越のようす」、「環境に配慮した行動(チェックシート)」、「協働で取り組むプロジェクト」の3部構成になっています。

その中で、「環境に配慮した行動(チェックシート)」は、第三次環境基本計画における11の大施策(「1.地球温暖化対策の推進」、「2.循環型社会の構築」、「3.生物多様性の保全」、「4.貴重な緑の保全」、「5.多様な緑の創出・育成」、「6.大気環境の保全」、「7.水環境の保全」、「8.化学物質等の環境リスク対策」、「9.歴史と文化を生かした地域づくり」、「10.快適に暮らせるまちづくり」、「11.人づくり・ネットワークづくり」)に沿って分類した、各自が実施すべき40の行動を掲げています。また、チェックシートによって自身の行動の取組状況を点数で確認できるようになっています。このチェックシートの活用により、自身の行動を振り返るとともに、他の人と比較するなど、一人ひとりの環境に配慮した行動の広がりや継続的な促進が期待されます。

ここでは、「環境に配慮した行動(チェックシート)」の2022(令和4)年度を取組結果を報告するとともに、2017(平成29)年度からの傾向と比較して、本年度を取組状況を評価します。なお、前号(第6号)でお伝えできなかった2021(令和3)年度の結果も合わせて示します。

「環境に配慮した行動(チェックシート)」に見る環境行動の取組状況

●「環境に配慮した行動(チェックシート)」の実施概要

「環境に配慮した行動(チェックシート)」は、第三次環境基本計画における11の大施策におけるそれぞれ1～6つの行動、計40の行動について、日ごろの取組状況をそれぞれ表-1の5つの選択肢から選択して評価してもらうものです。

今年度の取組概要と全体集計を表-2に示します。2022(令和4)年度は、2023年1月9日から1月30日までに東洋大学総合情報学部の講義科目「CSR論」並びに「コミュニティデザイン論」の履修者141名(両方履修している学生は1名として数えて)のうち80名が回答しました(回答率56.7%)。また、2022年12月11日のかわごえ環境ネット主催による環境講演会「川越のSDGs～それってほんとにサステナブル?～」の参加者のうち

24名、2023年2月25日のかわごえ環境ネット主催による第21回かわごえ環境フォーラムの参加者のうち34名の回答があり、合計で138名の回答となりました。

表-1 チェックシート各項目の評価選択肢

点数	評価
5	常に／すでに実施している
3	かなり実施している
1	ある程度実施している
0	実施していない
n	該当しない／分からない

表-2 取組概要と全体集計（比較のために2017～2021年度の実施結果も表示）

年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実施時期	2～2月	6～2月	7～11月	7～3月	5～2月	12～2月
実施場所	講演会・イベント会場・大学生	講演会・イベント会場・大学生	講演会・イベント会場・大学生	大学生・川越市環境部職員・インターネット	大学生・イベント会場	大学生・講演会・イベント会場
回答者延べ人数	163	310	290	332	108	138
回答者内訳（年代）						
20歳未満	12	113	88	148	43	7
20歳代	61	46	46	102	48	79
30歳代	2	6	10	17	0	2
40歳代	5	13	26	27	1	3
50歳代	8	18	4	19	1	6
60歳代	31	17	7	12	3	8
70歳以上	25	44	42	5	6	20
無回答	19	54	67	2	6	13
回答者内訳（性別）						
男性	104	163	131	280	82	97
女性	35	90	90	50	20	27
無回答	24	57	69	2	6	14
全体集計（得点率）						
平均	38.2%	38.8%	40.3%	31.4%	33.6%	38.9%
標準偏差	18.1%	17.9%	19.3%	13.6%	16.1%	19.4%
最高	84.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.0%	100.0%
最低	1.5%	8.2%	3.6%	6.7%	3.5%	10.0%

*換算点：「該当しない項目である」評価の5点を分母から外して「分子/分母×100」を四捨五入した得点

●結果と考察

「環境に配慮した行動(チェックシート)」の各項目の平均点を平均得点の降順にしたものを表-3に、項目別の回答者割合を図-1に、6年間の平均得点の推移を、2018年度と2022年度を比較して得点が向上した順に図-2に示します。

全体として、新型コロナウイルスの影響が大きかった2020年度、2021年度は平均値が下がっていましたが、2022年度は2017～2019年度の平均値に近い値となりました。ただし、これらの年度は20歳前後の学生の回答者割合が多かったことも影響しているかもしれません。

図-1、表-1の環境に配慮した行動の平均点の順位は、年によって大きな変動はありません。個人で日ごろからできる行動や「しない」行動(たとえば「33.ごみのポイ捨てをしないようにしている」)が常に高い傾向にあり、公共空間に対する参加する行動(たとえば「26.湧水地に関する調査や清掃などの保全活動に参加している」)や機器の購入などが必要な行動(たとえば「2.太陽光、太陽熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーシステム・機器を購入または使用している」)は低い傾向にあります。2020年度と2021年度は、参加する活動が行われなかったり、行動自粛が求められたりもしたため、2022年度はこれらの年度と比較すると点数が上がっています。また、大学生は、家庭の機器を購入することについては立場的に難しいと考えられるのでこのような傾向となっていると考えられます。

図-2の2018年度と2022年度の平均点との比較を見ると、最も点数が上がっているのが「7.買い物の際は買い物袋を持参している」(1.3 上昇)となっており、他の項目と比較すると著しく上昇しています。これは、2020年7月1日以降、小売店でのレジ袋の有料化が必須となったことが大きく影響していると考えられます。法律や制度によって行動変容がなされた好例と言えます。また、順位としては「8.生ごみの減量や自家処理をしている」(40項目中24位から13位)、「31.景観をよくする行動をしている」(21位から12位)、「9.リユース品を購入または使用している」(28位から18位)なども上昇傾向にあります。ごみに関する関心や行動は、国連で定めたSDGs(持続可能な開発目標)でも多く取り上げられており、個人で取り組みやすい行動と言えます。

一方で、先に取り上げた「32.クリーン川越市民運動(ごみゼロ運動)や自主的な地域環境美化活動に参加している」や「38.講演会、シンポジウム、ワークショップ等の環境学習に参加している」などの「活動への参加」については全体的に点数が下がっています。これは「コロナ禍」の影響がまだあるかもしれないので、今後、環境団体等で活動の機会を増やしていくことが求められます。また、順位としては、「5.エコドライブを実践している」(8位から15位)や「4.環境性能に優れた自動車を購入または使用している」(18位から24位)という自動車関係の項目も順位を下げています。これは、大学生が車を所持、運転しないという傾向も関係しているかもしれませんが、自動車の環境性能が上がっていることから、これらを意識する機会が減っている可能性があります。「35.過度な自動車の利用をひかえ、徒歩や自転車・公共交通機関を利用している」については常に上位の取組になっていますが、自動車を使う人にも環境への負荷を意識させる周知活動が必要であると言えます。

標準偏差(回答のばらつき)の大きさで見ると、毎年傾向は変わりませんが、「13.生態系に被害を及ぼす外来種を放したり植えたりしないようにしている」「12.野生の生き物に関心を持ち、生き物調査や観察会、講座に参加している」あたりの生態系や生物多様性に関する項目が上位に来ています。これは、関心の高い人と低い人の差が大きいことを示しています。生態系や生物多様性は、私たちが生きていく上での基盤となっていますので、生物のみならず身近な自然環境のことを関心のない人に向けて知ってもらう機会を作ることが重要と考えます。

「環境に配慮した行動(チェックシート)」は、川越市ホームページで入手可能です。チェックして自らの行動を振り返ってみてください。川越市ホームページで上記のキーワードを検索すると以前の版のチェックシートが検索されますので、「川越市環境行動計画(平成29年2月改定)」を検索して出てくるページにアクセスして、その中にある「環境に配慮した行動(チェックシート)」をダウンロードしてください。

表-3 項目別の平均点（2022年度の平均点の降順）

順位	No.	大筋策	環境に配慮した行動	5	3	1	0	n	平均	標準偏差
6	13	3. 生物多様性の保全	生態系に被害を及ぼす外来種を放したり増えたりしないようにしている	168	46	55	43	20	3.3	2.0
8	7	2. 循環型社会の構築	買い物の際は買い物袋を持参している	125	96	62	47	2	3.0	1.9
7	35	10. 快適に暮らせるまちづくり	過度な自動車の利用をひかえ、徒歩や自転車・公共交通機関を利用している	145	60	88	20	19	3.2	1.9
13	5	1. 地球温暖化対策の推進	エコドライブを実践している	39	46	66	86	95	1.7	1.8
19	4	1. 地球温暖化対策の推進	環境性能に優れた自動車を購入または使用している	33	32	57	120	90	1.3	1.8
9	21	7. 水環境の保全	節水や水の再利用をしている	75	106	130	19	2	2.5	1.7
18	18	5. 多様な緑の創出・育成	生け垣の設置や、屋上、壁面（緑のカーテンを含む）、庭などの緑化をしている	34	52	94	139	13	1.3	1.6
20	22	7. 水環境の保全	節水型機器を導入している	32	48	85	140	27	1.3	1.6
10	36	10. 快適に暮らせるまちづくり	災害時に対する備えをしている	55	87	147	38	5	2.1	1.6
16	8	2. 循環型社会の構築	生ごみの減量や自家処理をしている	34	57	115	110	16	1.4	1.6
11	17	4. 貴重な緑の保全	地元で生産された農産物を食べている	39	76	139	59	19	1.8	1.6
5	20	6. 大気環境の保全	近所に迷惑な騒音・振動・悪臭を出さないように気をつけている	180	99	47	5	1	3.8	1.5
17	31	10. 快適に暮らせるまちづくり	景観をよくする行動をしている	30	55	139	105	3	1.4	1.5
3	29	8. 化学物質等の環境リスク対策	たばこを吸わないようにしている	254	15	11	23	29	4.4	1.5
26	32	10. 快適に暮らせるまちづくり	クリーン川越市民運動（ごみゼロ運動）や自主的な地域環境美化活動に参加している	26	28	59	207	12	0.9	1.5
14	3	1. 地球温暖化対策の推進	省エネ効果のある製品を購入または使用している	31	67	163	57	14	1.6	1.5
27	2	1. 地球温暖化対策の推進	太陽光、太陽熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーシステム・機器を購入または使用している	24	20	49	211	28	0.8	1.5
21	9	2. 循環型社会の構築	リユース品を購入または使用している	23	48	137	105	19	1.3	1.4
22	28	8. 化学物質等の環境リスク対策	合成洗剤でなく石鹸を利用するなど、化学物質の使用を控えるようにしている	19	48	114	133	18	1.1	1.4
24	30	9. 歴史と文化を生かした地域づくり	地域の歴史や文化に関心を持ち、郷土学習や文化財の保護活動への協力、まつり等への参加をしている	22	30	108	162	10	1.0	1.4
4	10	2. 循環型社会の構築	ごみは分別し、ごみ出しのルールを守っている	222	75	28	6	1	4.1	1.4
12	1	1. 地球温暖化対策の推進	省エネルギーを実行している	31	69	203	24	5	1.7	1.4
15	6	2. 循環型社会の構築	日用品を購入する際は環境配慮商品を選んでいる	22	69	169	62	10	1.5	1.4
29	24	7. 水環境の保全	雨水を下水管に流さず地下に浸透させる設備（雨水浸透ます）を設置している	16	12	23	196	85	0.6	1.4
25	16	4. 貴重な緑の保全	減農薬・堆肥利用の環境保全型農業の実施またはそのような農産物を消費している	16	26	95	151	44	0.9	1.3
2	34	10. 快適に暮らせるまちづくり	自転車は放置せず駐輪場を利用している	250	38	16	9	19	4.4	1.3
23	27	8. 化学物質等の環境リスク対策	ホームページや広報等を通じて、化学物質等の環境リスクに関する知識を身に付けるようにしている	13	41	127	146	5	1.0	1.3
30	11	2. 循環型社会の構築	ごみの減量・リサイクルに関するイベントや体験講座に参加している	17	14	42	247	12	0.5	1.3
28	14	3. 生物多様性の保全	河川・池沼などの水辺に親しみ、水質・生き物の調査や観察をしている	14	24	87	201	6	0.7	1.2
1	33	10. 快適に暮らせるまちづくり	ごみのポイ捨てをしないようにしている	275	36	19	2	0	4.5	1.1
31	12	3. 生物多様性の保全	野生の生き物に関心を持ち、生き物調査や観察会、講座に参加している	9	21	56	242	4	0.5	1.1
33	37	11. 人づくり・ネットワークづくり	環境施設や環境スポットの見学会に参加している	11	12	38	265	6	0.4	1.1
34	19	5. 多様な緑の創出・育成	花いっぱい運動や市民花壇など地域の緑化活動に参加している	8	17	31	266	10	0.4	1.0
32	39	11. 人づくり・ネットワークづくり	環境に関するアンケートに回答したり意見公募に応募したりしている	9	13	62	242	6	0.4	1.0
37	23	7. 水環境の保全	雨水利用をしている	8	11	23	260	30	0.3	1.0
35	40	11. 人づくり・ネットワークづくり	環境活動を広める活動をしている	8	12	41	263	8	0.4	1.0
36	38	11. 人づくり・ネットワークづくり	講演会、シンポジウム、ワークショップ等の環境学習に参加している	8	10	34	273	7	0.3	0.9
39	25	7. 水環境の保全	河川浄化活動に参加している	6	10	21	281	14	0.3	0.9
38	15	4. 貴重な緑の保全	樹林地の保全・管理活動に参加している	5	10	39	272	6	0.3	0.8
40	26	7. 水環境の保全	湧水地に関する調査や清掃などの保全活動に参加している	3	11	19	286	13	0.2	0.7

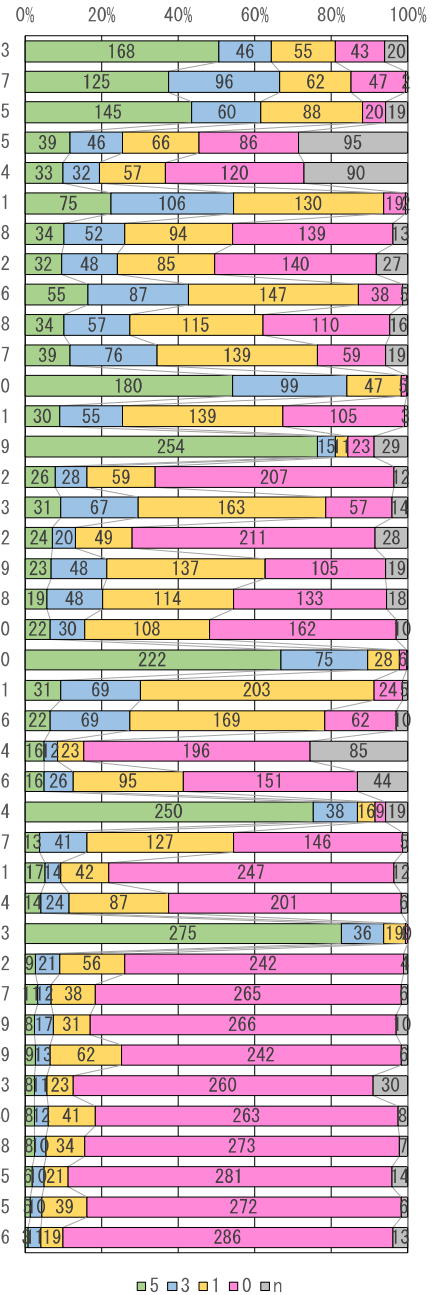


図-1 項目別回答者割合（2022年度、平均点の降順）

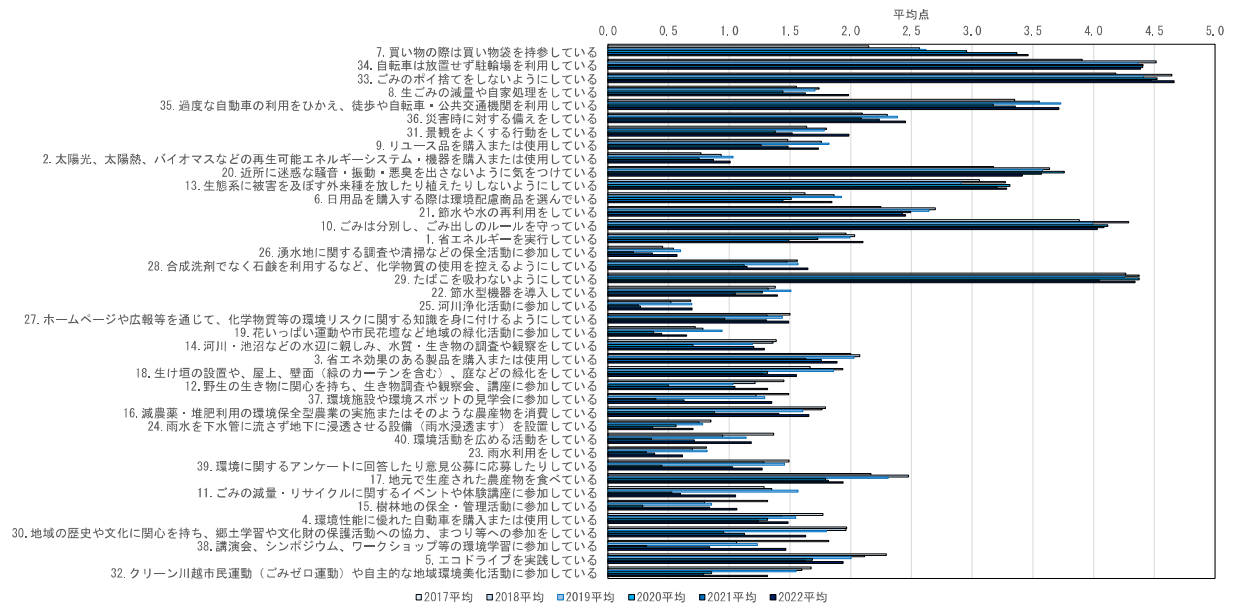


図-2 2017～2022年度の各項目の平均得点の推移（2017年から2022年にかけて平均点が向上した順）

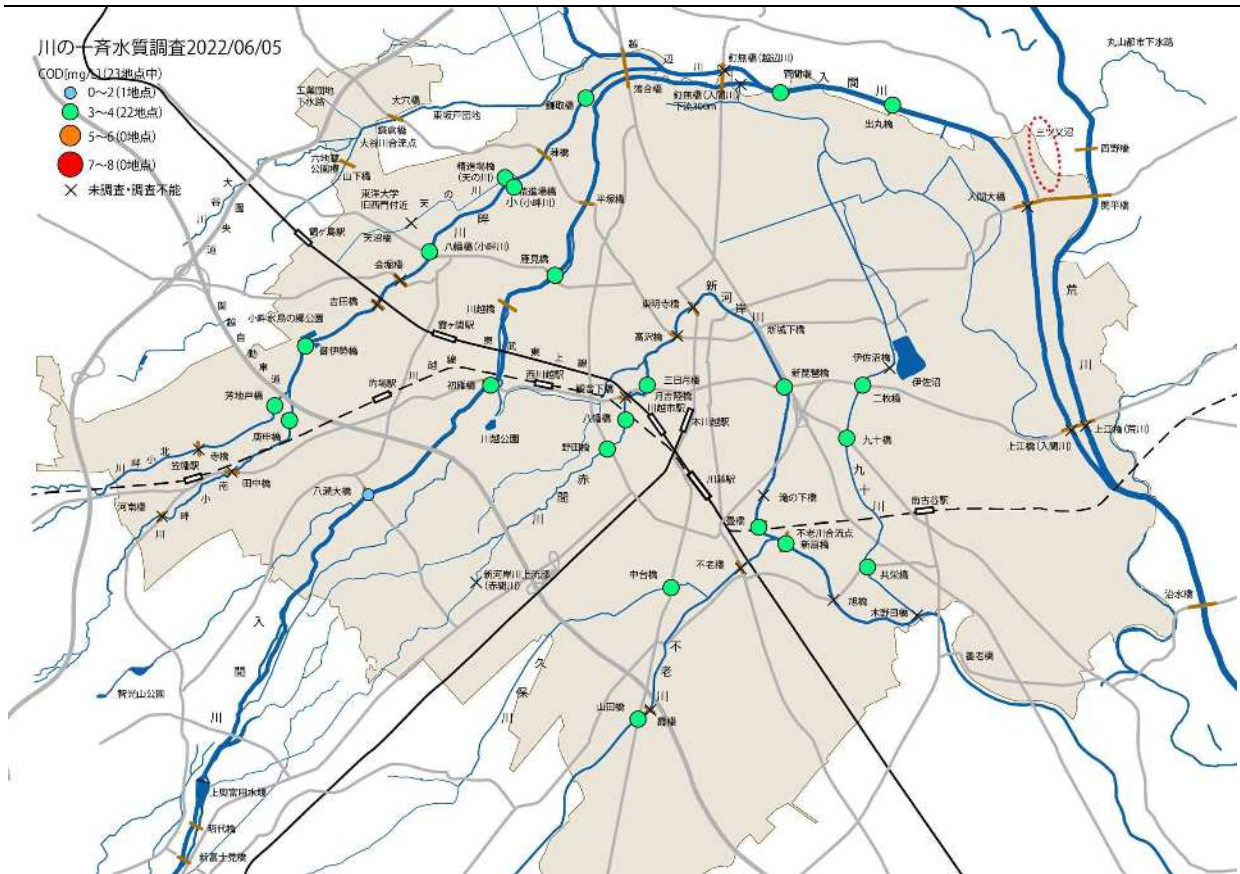
2 川の一斉水質調査

毎年6月第1日曜日が全国統一実施日の「身近な水環境の一斉調査」に参加する形で、本会では2005年度から「川越市内の川の一斉水質調査」を行っています。18年目の2022年は、6月5日(日)午前9名が分担して23地点の採水(1地点は水がないために調査せず)と水質調査(加えて1名が水質調査のみ参加)を行いました。

調査日は梅雨入りと見られる6月6日の前日であり、前日と当日午前は晴れてでしたが、前々日の6月3日にまとまった雨が降りました。採水後には、例年通り北公民館で水質調査を行いました。

2022年の水質調査は、COD(化学的酸素要求量)の区分で0~2mg/Lが1地点(2021年は7地点)、3~4mg/Lが22地点(同19地点)となりました。5mg/L以上の地点はなく、前々日の雨の影響もあるのか、水質のよくない地点がないという状況になりました。

最近の傾向としては、若年層の釣り人の増加が見られます。コロナ禍を経て、人の少ない郊外での行動が定着したのかもしれませんが。また、入間川でキャンプをする人とごみが多く見られたという感想もありました。川は野生動物の生息空間(ビオトープ)です。棲みやすい空間を保つためには利用者の配慮が必要です。川を定期的に調査することは、水質のみならず地域の環境を知る手がかりにもなります。



CODの水質調査結果(2022年6月5日午前採水・測定)



小畔川・入間川沿いではキジをよく見かける



北公民館での水質調査の様子

3 第21回かわごえ環境フォーラム

2023年2月25日(土)9:30-16:30にウエスタ川越活動室1・2において、「第21回かわごえ環境フォーラム」を開催しました。

コロナ禍に入った2020年は中止、2021年・2022年は規模縮小による開催となっていました。今回は2019年以来4年ぶりに参加者によるワークショップを開催できました。午前の部(オンライン参加を含む)、午後の部を合わせて延べ約150名の参加者でした。

また、この行事に合わせて発行を重ねてきた「かわごえ環境活動報告集」を初めてフルカラー印刷で発行しました。

本行事の開催にあたっては、川越市の後援、パイオニア株式会社川越事業所、武州ガス株式会社、株式会社環境総合研究所、初雁興業株式会社の4社の協賛をいただきました。毎回ご協賛いただきまことにありがとうございます。

午前の部 かわごえ環境活動報告会

午前の部「かわごえ環境活動報告会」では、8件の報告がありました。

(1)ふくはら子どもエコクラブ「結びつく林の活動と身近なエコ活動」

発足から12年目。小学生が主メンバーで、地元の循環型農業や雑木林などの自然環境を守ることが基本活動。農業体験・雑木林の生き物調査・県の「こどもエコフェスティバル」(3年ぶり開催)参加報告・SDGs 勉強会などたくさんの活動を報告いただきました。

(2)増田純一(NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ)「生物多様性有機農法が土壌の健全化と地球温暖化防止に貢献」

生物多様性有機農法による川越市福田の田んぼの土壌バクテリアは56種もの豊かな土壌菌で構成され、窒素固定するバクテリアも含まれていることがわかった。有機農法は土壌を健全化し、温室効果ガス亜酸化窒素(N₂O)の原因となる化学肥料を減らし、地球温暖化防止にも貢献すること。

(3)福原時夫(埼玉県生態系保護協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部)「キタミソウの歴史と分布」

2018年11月11日に伊佐沼で発見されたキタミソウ(絶滅危惧Ⅱ類:環境省)の調査・生育状況の報告、並びに埼玉県内での新たな自生地発見箇所や歴史について紹介。今後も行政・他団体との連携を図って埼玉県内にとどまることなく継続的に調査を行っていくこと。

(4)丸岡巧美・成川正行・長谷川清(環境製品評価研究協会)「太陽光発電による蓄電と暮らしの節電」

CO₂削減が期待できる太陽光発電パネルからの電力を蓄電池に蓄え、電化製品への活用方法や節電の検証実験の紹介。

(5)丹優介(東洋大学総合情報学部)「ボランティア活動から見るプラスチック問題の現状と課題」

文献調査・実地調査・アンケート調査を行い、プラスチック問題の現状を明らかにした。プラスチックごみは拾うことも大切だが、生産者・消費者ともにプラスチック問題への意識を高め、環境に配慮した取組を増やし、環境中にごみを放棄しないことが大切であるとの結論。

(6)関沙耶香(東洋大学総合情報学部)「川越市における防災及び防災情報の現状と課題」

市区町村単位での防災情報の発信及び意識、情報量の差が生じていることに焦点を当て、川越市の防災情報の現状と課題を調査。情報の受け手側のニーズや用途に合わせて活用できるよう、多言語対応や高齢者や子どもにも理解できる情報提供が求められるとの結論。

(7) 増田知久(かわごえ環境ネット)「社会環境部会の活動報告」

「2022 森フェス in 川越」及び本会社会環境部会の活動概要の報告。

(8) 賀登環(かわごえ環境ネット)「自然環境部会の活動報告」

本会自然環境部会の活動概要の報告及び環境保全の現状と課題の投げかけ。



(1) ふくはら子どもエコクラブ



(2) 増田純一さん



(4) 丸岡さん・成川さん・長谷川さん



(5) 丹優介さん



(6) 関沙耶香さん



(7) 増田知久さん



(8) 賀登環さん

午後の部 ワークショップ「若者×環境=暮らしに根ざした未来」

午後の部のワークショップは、日本若者協議会「日本版気候若者会議」、Climate Youth Japan、Fridays For Future Saitama の3団体をゲストにお招きし、各団体の活動内容を発表いただいた後、参加者とともに6つ(A~F)に分かれてグループワークを行いました。

グループワークのテーマ

2035年(2050年脱炭素を見据えて)にどんな未来になってほしいか

各グループの発表

Aグループ

自然と歴史と文化の街という川越を、“新しい”文化と調和した未来にしていこうという発想。

緑を中心とした文化、例えば耕作地面積50%に向けて田畑に多くの人に関わる仕組みを作る。そのためには、計画を作るときにいろんな人が参加すること。そうすることで、いろんな緑×都市生活=新しい文化になるのではないか。

Bグループ

脱炭素に向けては、便利さを保って二酸化炭素を減らすという矛盾とも言えることの両立化、学校給食のコンポスト化やガードレールの木質化といったアイデアも含めて、忙しすぎない街づくりをしてはどうか。それには、異年齢が話す場、憩う場を作ったり、自ら行動する人が育ち、モラル向上にもなる市民会議を設置するのがいい。

Cグループ

川越を自立・自給の社会にする。川越のエネルギー・食・教育・産業全体が自立し、川越らしさのある街づくりが重要。

川越らしさ、川越の魅力ある資源循環のあり方とはどういったことがあるか。それは、川越の自然環境の充実、特に中心部に少ない木を増やしたり体験型エコツーリズム、自転車道の整備や、幼・小・中学で土地

にあった地域の行事を年中行事化し魅力ある人づくりもする。また、ゆるキャラにもっと力を入れてほしい。ゆるキャラを含め若者を呼び込む魅力の発信の工夫も必要。

Dグループ

今の若者の中には、未来をあきらめている学生もいる。植物の名前も知らないし、体験が少ない。これまでの資本主義がゆえの金儲けや効率化がコンクリート化や農薬の多用になっている。農業の担い手不足等、人手不足だが、子ども・若者らにまず興味を持ってもらうところから始め、地域の人手不足は地域のコミュニティで人を育て解決していくよう、コミュニティの強さを育む。

Eグループ

さつまいもシティをつくりたい。小学校でも芋ほりを毎年の体験学習にする。そしてさつまいもの日を制定する。また、オーガニック給食にして、学校でもオーガニック野菜をつくる。そうすれば、学校が大人と子どもの交流の場になり、みんなで話して考える場にもなる。

他にも、どこでもドリンクバーがある街になってほしい。おいしい水やスポーツドリンクをどこでも無料で飲めるようにしてくれたらうれしい(小3生の声)。そしてアレルギーのない世界になってほしい。

Fグループ

大学生の紙ストローは飲みづらいという発言から議論が始まった。生物分解する草ストローが開発されているが、そもそも使い捨てのための改良技術は果たしてエコなのだろうか。例えば、冷房も設定温度が強すぎで寒い。これはエネルギーの使いすぎ。包装も過剰包装を見かける。

当たり前になっている日常を疑問に思うことからエコの議論を深め、なぜそれ(エネルギーの過剰使用など)が起こっているのかを見つめたところ、根本的な問題は、「意識」なのではないだろうかという結論に行き着いた。意識変革にむけて、SNSで発信し議論したり(真偽のリテラシーも重要)、環境教育が大切。

全体シェア

2035年の望む未来像に対して、各グループから出た未来像は、全体像から個々のアイデアだったり、一方で問題化した現状の課題分析や事象のさらに奥へと考察を行い、人間の意識の問題という根本問題を浮上させたりと、多種多様の声が出てきました。

2035年の川越の未来像

一言で言えば、「自立・自給の川越」。それは具体的にはどんな川越なのか。

Fグループから出た意識の変革。当たり前のことをまず疑問に思い、それを深掘りし、本当の環境意識とは何かに気づく。変革した環境意識となることで、Bグループのいう便利と両立するCO₂削減の日常にすること、その日常の延長線上に、Aグループのいう新しい文化が川越の文化になるのではないのでしょうか。

また、意識の変革。それは教育の場やコミュニティの場で体験や異年齢交流(B・D・Eグループ)を通して醸成されるのではないのでしょうか。直して使う、自分で作るという以前には当たり前だった意識や技術の継承、幼少期から興味を持ち、体験を続けるうちに次の担い手の育成にもつながります。

そして川越らしさにすぐにもつながるといえば、Eグループからのさつまいもシティづくり。農に親しむきっかけとなり、畑や田んぼ体験へとつながられます。そして最後に、Eグループの小3生の願い、街中どこでもドリンクバーやアレルギーのない世界が実現できたら素敵です!子どもの声を形にできるのは先人の役目。若者の声を聞いて、経験からの知恵を生かし2035年の川越づくりにむけて議論とアクションをかわごえ環境ネットでは続けていきたいと思えます。

2025年には「川越市環境行動計画」が改定されます。望ましい川越の未来像に向けて、2035年までの川越市の取り組む具体的な行動計画を作る作業が始まります。このかわごえ環境フォーラム午後の部のワークショップで話し合われた声も参考にして話し合いを進めていきたいと思えますので、今後もみなさまご注目く

ださい。



日本若者協議会「日本版気候若者会議」



Climate Youth Japan



Fridays For Future Saitama



A グループのテーブル



B グループのテーブル



C グループのテーブル



A グループのプレゼンテーション



B グループのプレゼンテーション



C グループのプレゼンテーション



D グループのテーブル



E グループのテーブル



F グループのテーブル



D グループのプレゼンテーション



E グループのプレゼンテーション



F グループのプレゼンテーション

4 2022 森フェス in 川越 活動報告

さわやかな秋の日差しのもと、川越で最も生きものたちの声が聞こえる場所、(仮称)川越市森林公園計画地で「2022 森フェス in 川越」を11月19日(土)に開催しました。お天気にも恵まれ、森を散策するにはとても気持ちがよい季節、たくさんの方に参加いただきました。参加者は大人42名、子ども27名、未就学児17名、スタッフ等81名の総勢167名で、かわごえ環境ネットが主催する森を舞台にした活動では最大規模のものになりました。

イベントではA「森のスタンプラリー&ネイチャーゲーム」、B「木工ワークショップ」、C「秋野菜の収穫体験&読み聞かせ会」の3つのグループに分かれてアクティビティを体験した後、合同で「森で歌おう」と「プチマルシェ」を楽しみました。たくさんの子供たちとその親御さんが森を訪れ、自然に触れあい、貴重な機会になりました。

それぞれのアクティビティでは、かわごえ環境

A グループ 森のスタンプラリー&ネイチャーゲーム

ネットのメンバーがこれまで蓄積してきた自然を楽しむ知恵、この場所を守っていくために生まれた人とのつながりが存分に発揮され、森の各所で素敵なアイデアが表現されました。そして今回のイベントでは、大木農園、なるかわ農園、矢部農園、たばちゃん農園、川越緑のサポーター、福原小学校有志の会、あけぼのホールに協力いただき、主催団体だけでは叶わなかったより多様な風景を森の中で作り出すことができました。心より感謝いたします。川越で暮らす未来の子供たちにためにも、かわごえ環境ネットでは豊かな自然を残す活動をこれからも続けていきたいと思えます。

本イベントは川越市の市制施行100周年記念事業の提案型事業として採択され、実施しました。

(森フェス実行委員長 増田知久)



A-1 バードコールで鳥のまねをしよう



A-2 ドングリやじろべえをつくろう



A-3 木の実をみつけよう



A-4 ドングリころころ



A-5 森の博士とお話しよう





A-6 みつけた花や生きものを教えて



森の美術館



A-7 葉っぱのスタンドグラスをつくろう

B グループ 木工ワークショップ By. 川越緑のサポーター



ドングリホルダーをつくろう



丸太を切って年輪パズルに



葉っぱで笑顔ができるかな

C グループ 収穫体験&読み聞かせ会 By. 大木農園、福原小学校有志の会



C-1 大きな布絵本を読みました



C-2 川越名物さといもを収穫しました



A/B/C 合同 森で歌おう&プチマルシェ By. あげぼのホール、地域の農家さん



5 2022年クリーン活動の報告

2022年もかわごえ環境ネットが主催するクリーン活動を春夏秋冬の年4回実施しました。リピーターの方から初参加の方まで、30名～70名近くとたくさんの市民に参加頂き、感謝いたします。

「まちがきれいになると気持ちがいい、クリーン活動は気軽に参加できるボランティア、いつもとは違うまちの様子がみられて楽しい」、クリーン活動に参加してくれた方々から、こういった感想

をいただきます。普段あまり気に留めることのない小道やまちの隘路に目を凝らしながらゴミを拾っていくクリーン活動、いつもとは違う川越のまちの表情と出会えるきっかけになっています。これからも自分たちが暮らすまちを大切にしていこう、そんな思いを抱いて今後もクリーン活動を続けていければと思いますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。(増田知久)

《2022年の実施概要》

「春の里山 自然観察&クリーン活動」

日時：5月1日（日）9:30-11:30

場所：(仮称)川越市森林公園計画地

参加者数：44名



「夏の郊外クリーン活動」

日時：7月18日（月）9:30-11:30

場所：やすらぎのさと～川越警察署周辺

参加者数：47名



「川越まつり会場事前クリーン活動」

日時：10月9日（日）9:30-11:30

場所：川越まつり会場

参加者数：31名



「歳末まち美化活動」

日時：12月18日（日）9:30-11:30

場所：中心市街地

参加者数：69名



【報告】春の里山 自然観察&クリーン活動（5月1日）

2019年から始まった「春の里山自然観察&クリーン活動」、4回目の今年は5月1日（日）に（仮称）川越市森林公園計画地で実施、新型コロナウイルス感染防止（マスク着用、体温測定、手の消毒）を図りながらの活動でした。

参加者は9時30分に集合、参加者は市民の方々34名、スタッフ10名、合計44名でした。参加者の年齢は8歳～80歳代と幅広い年齢構成で、高齢者の元気が特筆されます。

活動に先立ち、下見を4月26日に行ったところ、ゴミがほとんど有りませんでした。よって参加者には自然観察を行っていただき、スタッフがたまに落ちているゴミを拾うことで活動を実施しました。



ナラ枯れの説明

ゴミが少なくなった理由は、かわごえ環境ネット自然環境部会や「木びちっこの会」等の保全活動と市民の協力により、森がよりきれいに保たれている成果と考えられます。

参加者は、かわごえ環境ネットが2021年に上梓した、新訂版「川越の自然」を使用しての観察、A組は賀登さん、B組は横山さんの案内と説明、新緑の森の中を、キンラン、ギンランを見ながら植物観察をしました。説明は初心者でも興味が湧く分かり易い内容でしたので好評でした。

11時30分、集めたごみを南文化会館（ジョイフル）で分別し、集合写真を撮り11時45分に解散、12時頃から雨がポツリポツリと降り始め、ラッキーな活動でした。（菊地三生）



切り株からキノコ

【報告】夏の郊外クリーン活動（7月18日）

かわごえ環境ネットでは、春夏秋冬の4回のクリーン活動をしております。7月18日（月）に市民、団体や事業者に参加を呼びかけ「夏の郊外クリーン活動」を行いました。

9時30分に「やすらぎの里」に集合した参加者は47人、昨年は39人、コロナウイルス感染対策のため、体温測定、手の消毒を行い、三密に配慮しました。9時45分、参加者は5班に分かれ、各リーダーの誘導で国道16号、254号などの道路や空地の清掃活動を開始、11時過ぎに「やすらぎの里」に戻り、集めたごみの分別作業を行い解散いたしました。猛暑の中、熱中症に気をつけながらの活動でしたが無事終了しました。

今年の参加者の内訳は、武州ガス、ピージーエンジニアリング、本庄ガス社員有志11名、第一生命川越西部オフィス社員有志14名、市民の方々、かわごえ環境ネット会員など、11歳～85歳の幅広い年齢構成でした。ありがとうございました。なお、今回は東洋大学総合情報学科学学生がプラスチックゴミの研究のために参加、集めたゴミ分類や参加者へのアンケート調査を行いました。今回のクリーン活動は、かわごえ環境ネット社会環境部会の支援、渡辺利衛さんの尽力により行われました。ありがとうございました。（菊地三生）



ゴミ拾い開始



見えないところにゴミが

【報告】秋のクリーン活動「川越まつり会場 事前クリーン活動」（10月9日）

10月9日（日）に第7回秋のクリーン活動を行いました。今年は市制100周年記念の川越まつりが10月15日、16日開催されました。コロナ以前はお祭りの最中にクリーン活動を行っていましたが、今年は事前クリーン活動として行いました。

9時30分に本川越駅前交番前に集合、参加者31名、5コースに班分け、各班のリーダーと一緒に参加者は蔵造りや旧市街のゴミ拾いを行いま

した。集めたゴミは中央公民館で分別し、11時30分に解散しました。今年は親子で参加の方や学生の参加もあり会話が弾む楽しい活動の半日でした。

なお、夏の郊外クリーン活動に引き続き東洋大学総合情報学科学生 丹優介君がプラスチックゴミの研究のために参加、集めたゴミ分類や参加者へのアンケート調査（サンプル数26）を実施しました。（菊地三生）



中央公民館での分別作業



頑張りました。



旧永島邸前で

【報告】歳末まち美化活動（12月18日）

2003年から始まった中心市街地の歳末まち美化活動、20回目の今年は12月18日（日）に実施、天気は快晴で風無し。

9時30分に本川越駅前交番前に集合、参加者は69名。市民、かわごえ環境ネット会員、武州ガスと関係会社の方々、大東建託川越支店の方々など、2歳～80歳代の幅広い年代の参加者でした。

小瀬理事長の挨拶、集合写真の撮影（駅前交番のお巡りさんに撮影を依頼）、クリーン名人の渡辺利衛さんよりごみ収集の仕方とコースの説明の後、参加者は7コースに分かれクリーン活動を開始しました。

参加者はまち美化活動のゼッケンを付け、空き缶・紙くず・タバコなどを拾いながら、師走の市内

中心部を回り、中央公民館で収集した「ごみ」を分別し解散しました。尚、参加者には会員カンパで購入した川越の銘菓をお土産としました。

ごみ拾いは、まち美化の効果とともに、歩行や

屈伸を行うことにより、エクササイズ (exercise 英語で運動の意) の効果もあります。来年も振るって多くの方々のご参加を！！ (菊地三生)



渡辺利衛さんよりごみ拾いの説明



本川越駅ペペ間前に集合



側溝の蓋に挟まった吸い殻を



中央通りでのごみ拾い



仲町交差点にて



中央公民館での分別作業

6 自然環境部会の活動

(年次報告 2023 年 1 2 月 2022 年度 (令和 4 年度) 2022 年 4 月～2023 年 3 月)

川越の自然の調査・保全再生活動

(1) 「(仮称)川越市森林公園」計画地での活動

武蔵野の雑木林は川越の原風景ともいえる自然遺産ですが、現在次々と失われています。市内に 1996 年には 510 h a ありましたが、2019 年は 332 h a になり、年平均 8 h a の減少で計算上はあと 40 年ほどでゼロになります。どこで下げ止まりになるのでしょうか。

2019 年頃からナラ枯れが広がり始め、林内に夏なのに葉が茶色になったコナラを見るようになりました。ナラ枯れは急速に広範囲に広がっていき市内の殆どの雑木林で確認されています。川越だけでなく近隣の平地林でも同じような状況です。戦後ほとんど循環的な手入れをしないでここまできた平地林が、カシノナガキクイムシの格好のターゲットになったのです。今後、里山の風景がどうなるか危惧されます。

三芳・所沢・川越の畑作地で営まれている循環型農業(「武蔵野の落ち葉堆肥農法」)が 2017 年に「日本農業遺産」として認定され、2023 年 7 月には「世界農業遺産」に認定されました。川越の福原地区に「(仮称)川越市森林公園」計画地として 38 h a ほどのまとまった雑木林(一部畑地)があります。平成 16 年に公園化の基本構想が出されましたが、まだ実現にはいたっていません。その内 10 h a 余りの公有地化されたエリアを中心に「森のさんぽ道」が敷設され、多くの市民が散歩に訪れています。ここは 500 種以上もの動植物の生息が確認されている、川越でも第一級の在来種遺伝子プールです。

実はここは川越の循環型農業のメッカともいえる平地林で、今も農用林として活用されているエリアがあります。環境ネット自然環境部会ではこのすばらしい木林を広く市民に知っていただくため、また次世代に引き継ぐために自然観察会の開催や、調査・保全・再生活動を行っています。

「森を知り、森を楽しみ、森を育てる」を合言葉に毎月第 2 と第 4 の月曜日の午前中、20 名前後の会員がボランティアに参加しています。2022 年はコロナ禍ではありましたが 21 回活動し、延べ 382 名が参加しました。

「(仮称)川越市森林公園」計画地 調査・保全グループ

2022年活動計画 実績

2022年活動計画 実績				参加者
1月	10日	話し合い・観察	来年度の計画	22
	24	保全活動	初雁高校向い側(オドリコソウの森)	20
2月	14	保全活動	雨天 林内散策	15
	28	保全活動	ナラ枯れ学習会(黒田氏講演録画)	20
3月	14	保全活動	巣箱の点検・取り換え	22
	28	調査・観察	ウグイスカグラなど早春の花	20
4月	11	調査・観察	スマレ、樹木の新緑	17
	25	調査・観察	キンランなど希少種調査	19
5月	9	調査・観察	キンラン、クチナシグサ等調査	19
	23	調査・観察	希少種調査	21
6月	13	調査・観察	片倉城址公園観察会(八王子)	12
	27	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	17
7月	11	調査・観察	ヤマユリ、クモキリソウ	21
	25	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	14
9月	12	調査・観察	森フェスの話し合い・秋の七草	25
	26	保全活動	「リョウブの森」手入れ	20
10月	10	保全活動	林内観察	17
	24	調査・観察	小雨 森フェスのポイント場所決め	9
11月	14	保全活動	森フェス最終確認	17
	28	保全活動	森フェス振り返り・リンドウ観察	15
12月	12	保全活動	A3エリア手入れ作業	20
合計				382
1月	9	話し合い・観察		
	23	保全活動	A3エリア手入れ作業	

① 冬の雑木林

1月10日が年明け最初の活動日でした。この日は例年、一年間の予定を話し合います。その後、初冬の林内を巡ります。この時期の雑木林は静まり返っていて、樹々も葉を落とし梢が青空に映えています。林床は落ち葉で埋まっています。一昨年から顕著になったナラ枯れ被害木をかなり見かけるようになりました。林の衰えがこのような形で出てきました。

また、この時期に野鳥の巣箱の営巣確認と掃除をしています。冬はシジュウカラ、エナガ、アオゲラなど野鳥の声がよく通ります。20数個掛けた巣箱を下ろして、営巣の有無を確認し掃除をして、また春の繁殖に備えます。例年7割くらいの確率で利用されています。巣箱はシジュウカラが利用するのですが、あの小さな鳥が巣箱の中に20グラム以上の巣材を運ぶのです。コケ、獣毛、中には毛糸のようなものも集めています。

年明け早々に農家のクズ掃き（落ち葉掃き）がはじまります。このエリアの農用林では地主さんが精力的にクズ掃きをします。ボランティアの方々も手伝っています。

この雑木林で最初に花を咲かせるのはウグイスカグラです。2月の中旬には星の形の赤い花が見られます。シュンランもこの頃から咲き始め、5月頃まで長い花期です。また、この季節は落葉樹の冬芽が観察でき、葉がなくても樹種を確認することができます。これも冬場の楽しみ方です。



巣箱の掛け替え 年々危なっかしくなる

② 春の雑木林

3月末頃から林は一気に新緑にぬりかえられます。ウワミズザクラ、アカシデから始まり4月中旬にはほぼ新葉が出そろいます。4月下旬からは希少種の調査です。キンラン、ギンラン、クチナシグサ、イチヤクソウなど分布調査をしています。

樹木もこの時期、花を咲かせます。ヤマザクラはそこかしこにあり、林に明かりが灯ったようです。ウワミズザクラは白いブラシのような花で樹木全体が白っぽく見えます。美しい花々は足早に咲き終わり、5月末頃には林はすっかり濃い緑になります。



3/28 ヤマザクラ



4/6 新緑の散歩道



キンラン

③ 夏の雑木林

夏は生き物にとって成長、繁殖の大切な時期です。樹木はいっぱい葉を広げ、空を見上げてもギャップはありません。足元には昆虫、クモ、トカゲの類がうごめいています。2022年の夏は6月25日ころから連日35度以上の猛暑が続き、6月27日には観測史上最短の梅雨明けとなりました。その後も猛暑が続き、雨の少ない夏で雑木林はカラカラになりました。キノコもこの年は少な目でした。

夏場の雑木林の手入れは旺盛な草との格闘です。この林は外来種はあまり入り込んでいませんが、アズマネザサなどは刈っても刈っても繁茂しています。在来の希少種を刈らない様、手刈りのあと動力で刈払いしています。

7月10日には「キノコの観察会」、7月30日には「虫の観察会」が市民の方を対象に行われました。



夏の植物調査

④ 秋の雑木林

11月になると樹木の実次第に色づいてきて、ムラサキシキブの紫、ガマズミの赤が色をそえます。これらの実は野鳥たちの貴重な食べ物になります。そして種を落とすので樹木の散布役をしていることになります。ウグイスカグラやガマズミはこの雑木林にかなりの本数がありますが、ほとんどが鳥達の仕事でしょう。手入れの際に簡単に切られてしまいがちですが、生き物の多様性のため残す手入れをしています。この頃リンドウが林床を飾ります。薄紫色の釣鐘のような花を見ると、信州かどこかの高原にいるような気分です。身近にある美しきスポットです。

ここで今年は環境ネットが市制100周年記念行事として、「森フェス in 川越 2022」を行いこの森のすばらしさを市民に発信しました。11月19日(土)、参加者が親子100名あまり、スタッフ60名の大規模イベントでした。詳しくは全体事業の項をご覧ください。

自然環境部会のメンバーが毎月この地の生き物調査を続けて15年ほどになります。植物、動物(昆虫、クモ、爬虫類、哺乳類など)に関するデータは市のデータベース構築に登録して将来的に利活用できるようにまとめています。



11/19 森フェス



森フェス 落葉のステンドグラス



森フェス 音楽・マルシェ会場

⑤ 保全・再生活動

「(仮称)川越市森林公園」計画地の公有地の保全再生活動は16年目になります。当初はジャングル状態になった放棄地を手入していましたが、最近は生物多様性保全のため、植生を調査しながらの手入れをしています。このような課程で新たに絶滅危惧種が見つかったり、在来のオドリコソウなど希少種の再生につながったりしています。

夏場は旺盛に育った林床の草刈りをしています。トイレのある「第2武蔵野ふれあいの森」は散歩する市民も多く人気のコースです。手刈り班と動力班で丁寧に草刈りをしています。

2022年の秋は台風は少なく、倒木や枝折れの被害はあまり出ませんでした。雑木林にとって悲劇的な現象が確認されました。ナラ枯れの被害がかなり及んでいたのです。全国的には様々な場所で発生していますが、ついにこの雑木林でも50本以上の被害木がでました。防護対策は難しく、被害木は伐倒し持ち出すしかない状況です。公有地は行政が対応、民有地はボランティアが伐倒していますが、大変な労力と費用です。

11月はシュンランやイチヤクソウなど植生豊かなゾーンの手入れに取り掛かりました。樹木も40種くらいあり、将来高木層になるヤマザクラ、アオハダ、アカシデの幼樹は選択的に残しています。また、野鳥のために身のなる木、ウグイスカグラ、ガマズミ、ウメモドキなども残すようにしています。



第2武蔵野ふれあいの森の手入れ



最近は少なくなったルリビタキ



11月になるとそこかしこにリンドウが



ガマズミは野鳥の好物

(報告 賀登環)

(2) 池辺公園の調査・保全活動

池辺公園は入間川流域、八瀬大橋の近くにあり、面積1.3haの小さな雑木林です。その昔、くぬぎ山がダイオキシン問題で全国的にニュースになっていた頃、その産廃が一部八瀬大橋河畔に運びこまれていたという情報もありました。そこかしこにゴミ山ができ、明らかに不法投棄ゴミの捨て場になっていました。いまではほとんどが撤去されていますが、一部ゴミ山が残っています。

このような背景の中で平成20年に川越市により公園化されました。埼玉県生態系保護協会による平成19年の基本調査でキツネノカミソリ、ハグロソウなどの絶滅危惧種があることが分かり、開園当初からこれらを保護育成するために自然環境部会が協力することになり、今日に至っています。

また、造園業者の方が草刈り作業時にアズマイチゲの生息を発見され、川越ではこれまで確認がなく珍しい種ですので合わせて保護することになりました。そのアズマイチゲは気難しくなかなか花を付けませんでした。この10年間、多い時で30花ほどでしたが、2021年の春にはナント、一気に300以上の開花でした。これまで他市の生息地の調査などして開花の少ない原因を探ってきましたが、分からずじまいでした。なぜ、ここでこのように多く開花したのか、例えば十分に葉が広がり栄養を蓄え、開花期が巡ってきたとも考えられます。次年度にどうなるか、気になるところでしたが、残念ながら2022年の開花数は寂しい限りでした。

この林はずっと昔は入間川の氾濫があったと思われます。今でも水を好む植生が見られ、エノキ、イボタノキなどが多くあります。福原地区の乾燥気味の雑木林には見られない植生です。また、ニセアカシア（ハリエンジュ）が道路沿いに多いのも特徴です。5月下旬からの開花期は、いい香りが漂います。

自然環境部会では毎月第2火曜日を定例の活動日とし、10人前後で調査保全活動を続けてきました。植物データは200種ほどです。他では見られない希少種もあり大切にしたい場所です。池辺公園周辺はモトクロスやサバイバルゲーム場、サッカーコートなどに利用されており、採石場へのダンプの出入りも多くかなり埃っぽく、荒れた雰囲気です。さらに一時は不法土砂堆積もありました。このような中で池辺公園はオアシスのような場所です。「コロナ」の影響か、最近では散策に訪れる方も多くなりました。



植物調査の様子

希少種の花数				
	2019年	2020	2021	2022
アズマイチゲ	10	30	300	10
キツネノカミソリ		302	468	332
ウバユリ	44	32	78	84

アズマイチゲなど希少種の経年開花数



夏の暑い時期に咲くキツネノカミソリ



ゴミの不法投棄

(3) 調査活動・観察会などの報告

2022 年もコロナ禍が続き、社会全体が常にコロナを意識しての有り様となりました。当然環境ネットの活動も感染対策を前提としたものになりました。緊急事態宣言の発令はありませんでしたが、まん延防止重点措置が1月中旬から3月中旬頃まで発令されていてこの間のイベントはほぼ自粛となりました。その後は感染対策をとったうえで観察会などを開催しました。

また、調査活動は会員の少人数でするので密にならぬよう配慮して予定通り活動しました。

①「生き物調査の報告」発行

川越市環境基本計画・緑の基本計画において、野生生物の分布・生態等に関する調査・研究が位置づけられていて、市は 2017 年から「かわごえ生き物調査」の施策を開始しました。かわごえ環境ネットはそれ以前から生き物調査を実施していて、その後全面的に協力していきました。

市が募集した市民調査員の方、環境ネット会員が精力的に調査し、2017 年から 2021 年までの 5 年間で延べ 2 万件にのぼるデータが集積されました。これらを環境ネット生き物小委員会で統計分析をしました。植物 834 種、鳥類 126 種、昆虫 366 種、クモ 33 種などの生息がメッシュコード別に分析できました。

これらの貴重なデータを写真のような冊子にまとめました。A4 版、オールカラー、46 ページの体裁。400 部の出版で環境ネットの費用で賄いましたので無料です。



② 今年実施した生き物調査

(i) 寺尾調節池 4月20日(水)

植物 78 種 (RD:コウホネ、オニナルコスゲ、タコノアシ) 鳥類 15 種 その他 6 種

(ii) 水上公園 5月17日(火)

植物 126 種 (RD:ノニガナ、ジャヤナギ) 鳥類 3 種 その他 6 種

(iii) 鯨井(小畔川土手周辺) 6月22日(水) 9名参加

植物 85 種 (RD:カワヂシャ、ミクリ) 鳥類 9 種 その他 10 種 (水路にナマズ、コイ、オイカワ 水田にハウネンエビ)

(iv) 安比奈親水公園 7月27日(水) 9名参加

連日の猛暑日、調査日の天気予報でも熱中症注意の報が出るなど、厳しい暑さの中での調査を覚悟し、参加人数も少ないのではないかと予想していたが、結果的に9名もの方に参加していただいた。調査を開始する頃にはすでに日差しが照り付け始め、参加者にはこまめな休憩と水分補給をお願いした。

この親水公園は入間川の広い河川敷を利用した広さ18haの広大な公園で、中心は球場、テニスコートなどのスポーツ施設及び芝生広場などが整備されている。ただし、公園の縁に僅かに植栽樹木はあるが、全体で見ると至って日陰のないところである。公園中央には小川が南北に流れ、公園西端は小川とは別の水路が流れる。調査はこの公園西端を流れる水路に沿って中央口付近から下流方面に向かい、途中サイクリングロードに沿って八幡橋手前までの往復コース。また、予定とは別に入間川河川敷の一部も調査した。調査を始めると間もなく9名は期せずして、3名ずつ3班に分かれた。[植物主体チーム]が2班、[昆虫・鳥主体チーム]が1班で、昆虫主体の3人は昆虫を求め八瀬大橋方面にどんどん進みすぐに姿が見えなくなった。植物班は、じっくり観察チームと、ペース配分考慮の中間スピードチームで、調査ペースも3者3様で個性が出ていた。調査終盤のサイクリングロードに入ると、先に行って戻ってきた班と、調査中の班が合流しそこで若干の情報交換等行ったが、そろそろ予定時間でもありその場で解散した。本日の調査結果は次の通りで調査の中心となった水路沿いの道と水路脇の雑木林と併せ、相当の植物を調査できた。

- ・植物135種『県のレッドデータ掲載種1種、外来種40種(帰化植物比率29.6%)』
- ・昆虫17種、 ・鳥類8種、 ・その他2種

快晴、暑い日



終盤に各班合流



エノキの若い果



クルマバザクロソウ



ヤブラン



コマツナギ



(v) 仙波河岸史跡公園 8月29日(月) 10名参加

植物 115 種 (RD:コウホネ) 鳥類 10 種 昆虫 23 (ラミーカミキリ等) その他 5 種

(vi) 水上公園 9月16日(金) 10名参加

実施日時 2022年9月16日(金) 9:30~12:30 天候 晴れ

今年度の生き物調査では、「川越水上公園」及び「寺尾調整池」については春と秋の二回調査を行い季節ごと植生等の違いを観察することとしている。今回、川越水上公園での調査は、春季同様池の縁を千年の森に向かい、その後土手を越えて河畔林を上流方向に進み、ムクロジを観察後公園内に戻るコースを調査フィールドとした。本日の参加者は 10 名で、いつもながら植物・昆虫・鳥類等に詳しい方々に参加していただけるので心強い。少し残念なのは、管理者による草刈り時期と重なって、きれいに草刈りされた後を調査して回るといった状況で、ヨモギなどの直立した茎をのぼす直立型草本は刈り取られてあまり姿が見られず、シロツメクサやカキドオシなど匍匐型や、オオバコ、セイヨウタンポポなどの踏み付けに強いロゼット型の背の低い植物が目立つ。

河畔林に入ると目の前で乗用草刈り機が散策路に沿って走っている場面に出くわした。圧倒的な機械力で瞬く間に植物を根こそぎ刈って走り去る様子を目の当たりにすると、植物に限らずそこに生息しているであろう昆虫などの生物が、一網打尽に消滅させられているのではないかと想像してしまう。そして、生物多様性の保持を実践することは管理された公園では難しいことを改めて実感させられる。

それでも広い公園である。調査フィールドの周囲、池の周り、狭い範囲ながらロープで囲ってあるところなどを丹念に調査した結果は、植物は春とほぼ同じ 127 種 (春 129 種) で個体数の少ない植物は特に発見できなかったが、レッドデータ掲載種 2 種 (ハグロソウ、ゴマギ)、昆虫は天候不順であった春の調査時に比べ、今回は 23 種 (春 6 種) と大幅アップ、鳥類は 8 種 (春 12 種) 等の結果を得た。



オオモクゲンジ



ハグロソウ



ツルボ



(vii) 寺尾調節池 10月20日(木) 10名参加

寺尾調節池のオニナルコスゲ保全について管理者の川越県土整備事務所に要望書を提出し、配慮する旨の回答を得た。この他、6月23日に牧野彰吾氏を講師に「川越版レッドデータブックを考える」という研修会をした。

③ 観察会・イベント

(i) 「社寺林の観察会」

日時：2022年6月18日(土) 9:30~12:00

参加者：16名 講師：稗島英憲、山中和郎

喜多院、中院は寺院として古刹で由緒ある立派なものであるが、樹木や草本など自然に目を向けると、また素晴らしいものがあります。喜多院には歴史を彷彿とさせる樹木があり、中院は「花の寺」といわれるほど多様な花木があります。コロナ禍の中、参加者人数を少なくして、感染対策を講じたうえで実施いたしました。二つのグループに分かれ、Aグループは喜多院から出発です。ここで有名な木は天海僧正お手植えといわれるコウヤマキでしょうか。樹齢は300年を越えます。川越では珍しいと言われるアカガシが数本、幹の中が空洞になりながらも懸命に葉を広げています。講師の山中心氏が空洞になったわけを参加者に聞きます。雷か、虫食いか、中心部が欠落しても側の維管束で樹木は生きていける。樹木の組織の話を知る。アカガシは準絶滅危惧（NT）で、樹木のRD種は川越ではとても少ないです。

社寺林には仏教に縁のある木もありますが、ケヤキ、ムクノキ、クスノキ、アラカシ、スダジイ等古くから生育してきた大径木もあります。森林性や樹洞を利用するチョウゲンボウ、アオバズクなどの生物も、それにより守られてきているのだと改めて喜多院の「鎮守の森」のすばらしさを認識しました。

次は中院です。赤松の変異種である多行松のユニークな樹形と磨かれた幹の赤さに感心しながら歩を進めると、足元に黄色い絨毯が広がります。見上げてみると楽しみにしていたモクゲンジの花が、樹木全体を覆うように咲き、梅雨空の下ひときわ黄色く鮮やかです。この観察会を6月に行うのは、モクゲンジの鮮やかな花を見ていただきたいためです。秋には黒い実ができて数珠に使われるそうで、お寺によく植えてある理由かもしれません。島崎藤村由来の茶室「不染亭」、
「狭山茶発祥の地」の石碑などがあり、寺院とは別の顔も見られます。



喜多院 空洞になったアカガシ



中院 モクゲンジの花を見上げる

(ii) 「キノコの観察会」

日時：2022年7月10日(日) 9:30~12:00

講師：稗島英憲氏、高杉茂氏

場所：「(仮称)川越市森林公園」計画地、南文化会館

参加者：19名、スタッフ4名

この夏は6月25日ころから連日35度以上の猛暑が続き、6月27日には観測史上最短の梅雨明けとなりました。このような異常気象の中で水分の欲しいキノコは大変です。下見に行ってもキノコはほとんど出ていません。7月10日の当日もお日様が眩しいほどの好天で、小さなお子さんも皆で目を皿のようにして探しました。そうすると少しずつ草の下から見つかっていきます。チチタケはきずをつけると乳液が出てきます。「いい匂い、きのこの匂いがする」と見つけた方、これが旨みの成分です。ツルタケ、ツチカブリ、アミスギタケなどが見つかりましたが、イグチの仲間は何年も例年たくさんあるのに、ほとんど出ていませんでした。これもカラカラ天気ゆえでしょう。「変なものがある！」と女性の声、行ってみるとコナラの幹に肉まんを張り付けたようなキノコ。それも大小4個も。講師の方も初めて見た、とのことで宿題になりました。

別の場所に移動しますと、マツに栗のようなキノコがついています。ヒトクチタケで中に特定の昆虫が入り込んで、胞子を拡散します。サワフタギタケが、枯れた木にもこもこと発生しています。弱った樹木にキノコが付き、木を徐々に分解していきやがて自然に還します。このようなキノコは腐生菌と呼ばれ、自然界で最終分解者の役目をしています。

ひとしきり、森の中でキノコ探しをして、室内に持ち帰り鑑定です。例年の半分くらいでしたが、じっくり見る事ができました。また変形菌(粘菌とも)を採取してきた方がおられ、こちらもルーペでみて不思議な世界に話が盛り上がりしました。自然界には不思議がいっぱいです。この日はキノコだけでなく植物や虫たちとの出会いも多くありました。小さなお子さん方も飽きることなく、動き回って楽しんでいました。



肉まんが張り付いたようなキノコ
後日、専門家の鑑定でヒラフスべらしいと



このキノコ、何ですか？



今日見つけたキノコ

(iii) 「虫の観察会」

日時：2022年7月30日(土)日9:30~12:00

場所：「(仮称)川越市森林公園」計画地

参加者：応募参加者22名、スタッフ8名

講師：佐々木英世氏(埼玉昆虫談話会)

今年の夏は例年にも増して「異常」が際立っていました。6月下旬に早々と梅雨明けし猛暑の日々が続く、やがて戻り梅雨のような蒸し暑い日々が7月。そして新型コロナ感染者数の急増です。このような中での開催でしたが、応募した方が全員出席され、最年少はママにおぶわれた1歳の坊やから70代の方まで、家族連れの方が多かったです。室内で課長の挨拶や講師の紹介の後、網や虫かごをもって林に向かいます。

最初に草原でバッタの仲間をたくさん見つけました。ショウリョウバッタ、カマキリなどは小さくて、まだ子どもです。アカハネナガウンカもいて、「えーっ、面白い顔！」と皆さん感動の様子。次いで、林の中に入るとちょっと涼しくて風も通り「気持ちいい。」の声。樹林の中では甲虫の仲間が見つかります。シラカシにカブトムシがいました。カブトやクワガタの頭だけになったのがたくさん残されています。どうやらカラスの仕業らしいです。それを触っていた小学生の女の子が「アーン！」と声をあげ、周りに人が集まってきました。ノコギリクワガタの頭だけになったのを触ったら指を挟まれたのです。腹や胸を食われても、頭部はまだ生きていたのです。講師の説明では「昆虫は脳を3か所にもっている。」とのこと。これは参加者の皆さんにも衝撃的な現象だったみたいです。

ちびっ子たちも虫を捕まえては講師、スタッフに問いかけ、親御さんたちも積極的に参加されて、集中力の切れない観察会でした。この日、観察した種は甲虫15種、カメムシ9種、チョウ6種、バッタ9種、トンボ2種、ハチ4種 その他クモ類、トカゲの類など45種ほどでした。



これ何ですか？



それーっ 追いかける



アカハネナガウンカ

(iv) 「キタミソウ観察会」

時：2022年11月6日(日) 9:00~12:00

講師：福原時夫氏、稗島英憲氏 ((公財) 埼玉県生態系保護協会会員)

キタミソウが川越伊佐沼で初めて“発見”(確認)されたのは2018年11月11日でした。それまで何百年かそれ以上ずっとここにいたのに、人間が気づかなかったのです。いかにも地味な植物で普通は目もくれない類です。発見に至る経緯はネット誌2021年11月号(No.181)のコラム「川越の自然を訪ねて」に詳しいのでそちらをご覧ください。キタミソウは「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」の22種の動植物のうちの一つで他の絶滅危惧種とはちがひ、強い保護が求められています。

今回の観察会は昨年同様、埼玉県生態系保護協会川越坂戸鶴ヶ島支部との共催です。当日は天候晴れ、気温17℃で快適な観察日和。広報川越で応募された市民の方、生態系会員や、入間市から来訪の植物の会の方など多勢になりましたので2グループに分かれての行動です。まずは九十川への排水口付近の群生地へ。ここでまず、グーっと屈伸運動になります。何しろ地面に“かぶりつき”でないと見えません。へら状の小さな葉を確認し、ルーペでさらにその中にあるまことに小さな数ミリの花が見えた時、参加者の皆さんからは「えーっ、ホントだ、花の形してる！」と歓声があがりました。ひとしきりキタミソウをみて、次のポイントへ移動です。伊佐沼を回りながら野鳥や植物にも注目。セイタカシギ、ダイサギ、ヨシ、セイバンモロコシ等々。北側の蓮を植えるための中洲に入ります。現在は蓮ではなく一面のキタミソウです。

次は北側の階段や木道のあるところの湿地帯。ここではさまざまな段階のキタミソウが観察でき

ました。青々とした葉がしげりこれから開花するもの、既に開花が終わり種子を付けているもの、茶色くなり枯れかけたものなど。これらのステージの違いは湿り具合に依存しているようで、少し乾いてくると足早に結実するようです。開花時期も伊佐沼では 10 月、3 月頃とサイクルが 2 回繰り返されます。

最後は二つのグループが合流し、まとめや疑問点など情報を共有しました。小学生の男の子が「こんな所にキタミソウあるのは知らなかった。」という感想を言ってくれました。



キタミソウの花



北側階段付近



とにかくしゃがみ込む

(v) 「古谷湿地魚観察会」

このイベントは環境政策課主催で、協力は自然環境部会と「小畔川の自然を考える会」です。10 年以上前から行われていますが悪天候や、増水などでよく中止になっています。今年は 10 月 29 日(土)、天気も良く穏やかな日よりで、親子 6 名ほどの参加でした。

昨年から市の方で子ども用のウェダーを準備し、お子さんも中に入って、夢中で魚取りをしていました。ヌカエビ、スジエビ、オイカワ、タイリクバラタナゴなどが多く捕れましたが、10 cm のギンブナには、オオーッと声が上がりました。部屋に戻って採捕した魚類を皆で観察しました。



ガサガサをするといろいろな魚が入る



何が捕れたかな



底は泥で歩きにくい



採捕した魚類を見る

(以上報告 自然環境部会 賀登環)

7 社会環境部会の活動報告

ネガティブな環境の未来からポジティブな未来へ。気持ちを切り替え、言葉で表現し、仲間を集め、アクションしていく、そんなことを思いながら 2022 年は活動をしてきました。未だ落ち着くことのない感染症による社会的パニック、世界的に不安定な情勢、失われていく自然、そして進行していく地球温暖化などマクロな事象からはなかなか明るい未来がみえなく、不安ばかりが募ります。

しかし、私たちが暮らすまち「川越」では持続可能な社会に向けて動き続けてきた人、動き出している人、動こうとしている人がいます。武蔵野の風景を色濃く残す雑木林での落ち葉掃き、生きもの育む田んぼの保全、エネルギー効率の良い暮らしの普及、まちのクリーン活動など、こういった身近なスケールでの活動の中にこれからの社会をサステナブルにしていこうという人たちがいます。そういった人たちが身近に感じ、自身も活動に参加すると、ネガティブな状況ばかりではないと気がつきます。

そして、これからもまちのそこここで身近な暮らしをサステナブルにしていこうという活動が生まれてくるでしょう。明るい未来は身近なコミュニティにある、そんな思いで来年も活動していきます。

2022 年は社会環境部会の担当するコラム「社会と環境について思うこと」では、2022 年は 5 件のコラムを投稿し、身近な自然の大切さや川越市内の森林の状況、また脱炭素に関するテーマを扱い、部会メンバーで協力して、環境問題に対する意識啓発をしました。また、11・12月号のコラムではかわごえ環境 STYLE の投稿をしました。

自主活動としては、12月には環境講演会 2022「川越の SDGs それってほんとにサステナブル？」をウェスタ川越で開催しました。

【環境講演会 2022】

- 演題：「川越の SDGs～それってほんとにサステナブル？～」
- 日時：2022 年 12 月 11 日（日）14:00-16:00
- 場所：ウェスタ川越会議室 1 オンライン配信
- 参加者数：27 名

【コラム】社会と環境について思うこと

- (17) 身近な公園にある自然の大切さ [2022 年 1・2月号 No. 183]
- (18) ナラ枯れと森づくり [2022 年 3・4月号 No. 184]
- (19) 川越の歴史、文化の再確認、そして… [2022 年 5・6月号 No. 185]
- (20) 意識改革が求められています [2022 年 7・8月号 No. 186]
- (21) 脱炭素社会に向けて (3) 水素社会を考える [2022 年 9・10月号 No. 187]

【コラム】かわごえ環境 STYLE

- (8) koloro farm とサニーサイドテラス [2022 年 11・12月号 No. 188]

【報告】環境講演会 2022 「川越のSDGs それってほんとにサステナブル？」

講演会の概要

12月11日（日）に社会環境部会主催の環境講演会「川越のSDGs それってほんとにサステナブル？」をウエスタ川越会議室1にて開催し、27名の参加者がありました。またYouTubeライブによるオンライン同時配信も行いました。

本講演では、川越在住のノンフィクションライター／環境ジャーナリスト高橋真樹さんをお招きし、SDGsの本質やあるべき行動指針・目標設定についてお話をいただきました。

講演の内容

講演では、①SDGsのサステナブルとはどういう意味なのか、地球は持続可能か、②気候変動やコロナの問題に私たちはどう向き合えばいいのか、③SDGsはなぜできたのか、日本ではどんなことが誤解されているのか、④SDGsが最も大切にしていることとは、⑤日本のSDGsはこのままで大丈夫なのか、⑥川越でそして私たちひとりひとりにはどんなことができるのか、⑦ごみ問題とエネルギー問題について、⑧ごみ問題は私たちに何を突きつけているのか、⑨再エネと省エネの暮らしでできることってなんだろうか、について具体例を交えながらわかりやすく説明されました。特にSDGsには「サステナブル（持続可能）」と「トランスフォーメーション（大転換）」の視点を持つことが重要だと強調されたのが印象的でした。

質疑応答

講演後の質疑応答の中では、吉野郁恵市議会議員からコメントをいただいたり、原村政樹映画監督から1月公開の映画「若者は山里をめざす」の紹介並びに山里の大切さについて語っていただいたりしました。

謝辞

今回の講演会の開催に際して、ご協力いただい

環境講演会 2022
「川越のSDGs ～それってほんとにサステナブル?～」

12/11 (日)
14:00～16:00
参加費無料

会場
ウエスタ川越
市民活動・生涯学習施設2階
会議室1

住所：川越市新宿町1-17-17
※オンライン配信もあります。
詳しくはかわごえ環境ネットのHPをご覧ください。

開催趣旨
2015年9月にSDGs(持続可能な開発目標)が国連総会で採択され、最近では日本のメディアやまちなかでもSDGsのロゴを見る機会が増えています。しかし、実際の活動やわがまちが果たす川越でどのような動きがあるのでしょうか。ほんとにサステナブルなことはなんなのでしょうか。本講演では、川越在住のノンフィクションライター／環境ジャーナリスト高橋真樹氏をお招きし、SDGsの本質や川越でのサステナブルな活動についてお話しいただきます。

講師
高橋 真樹氏
川越市在住
ノンフィクションライター/
環境ジャーナリスト
【最近の著書】
「こども気候変動アクション30 未来のためにできること」かもがの出版
「日本のSDGs それってほんとにサステナブル?」 共著書
佐藤 誠

申し込み 2022年11月1日(火)10時より電話またはメール
主 催 かわごえ環境ネット
問 合 先 かわごえ環境ネット事務局(川越市環境政策課)
Tel.049-224-5866
E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoe.lg.jp (①の部分に「*」と表示)

先着40名

AO
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



講演会の様子

た講師の高橋真樹さん、社会環境部会の関係者、そしてコロナ禍の中、足を運んでいただいた参加者にこの場を借りまして御礼申し上げます。
(宮崎誠)

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと

(17) 身近な公園にある自然の大切さ

このコラムについて

今回よりかわごえ環境ネットの広報紙がリニューアルされましたが、社会環境部会の担当するコラムはこれまでと変わらず、「社会と環境について思うこと」という大きなテーマに対して、日々の生活や世の中の動向を見聞きしていく中で社会環境部会のメンバーが感じていることについてコラムを通じてお送りしたいと思います。リニューアル後の第一回は社会環境部会の代表を務めている増田が、身近な公園にある自然の大切さについて綴ってみます。

子どもといっしょに行く公園の風景

うちには1歳になったばかりの息子がいます。子どもができる和生活スタイルが一変し、自分が住んでいるまちの中で、以前はあまり足を運んだことのない場所や風景に出会い、これまでとは違った視点でまちが見えてくることがあります。そのひとつが公園の風景です。子どもが手をつないで歩けるようになってから、家の近くにある喜多院公園によく行くようになりました。子どもができるまでは小さな公園に足を踏み入れることはあまりなく、まちを歩いていても公園のそばを素通りするのがほとんどでした。ですが最近では、いざ子どもとお散歩にしてみると、子どもは小さな自然を楽しむことができる天才だなと感じる場面が多くあります。うちの子どもが特別なわけではなく、公園で出会う園児や他の子たちを見て、どんな子どもでも自然を楽しめる本能のようなものが備わっているのではと思います。ほんのちょっとした築山に何度も登り降りをし、お気に入りの枝を見つければいつまでも手から離しませんし、イチョウの葉が敷き詰められた黄色のじゅうたんの上では枯れ葉をまき上げていつまでも戯

れています。大人にとっては一見ありふれた何の変哲もない公園も、子どもの目には小さな自然の宝庫なのだとしみじみと感じます。

大人としてできる「プチごみ拾い」

また、それと同時に別の視点も発見しました。公園の中にあるプラスチックごみやガラス破片がよりいっそう気になるようになりました。自然や物の存在を感じるために、子どもたちは園内のあらゆるものに手を触れ、素足で踏みしめ、時に息子はなめて確かめます。身近な大人としてできることは、環境を整え、危険なものは取り除いていくこと。

最近では息子と公園に行ったときにはビニール袋を持っていき、プチごみ拾いをしています。小さい範囲の小さい活動ですが、目の前の自然を全力で楽しむ子どもにとっては大きな意義があるのではないのでしょうか。今後遊びに行くときも、できることから続けていきたいと思っています。
(増田知久)



秋の終わりの喜多院公園

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと

(18) ナラ枯れと森づくり

ナラ枯れの進む平地林

緑の中を散策すると気持ちがよいです。私は時間があると（仮称）川越市森林公園計画地や飯能市の天覧山・多峯主山等の緑の森を散策します。ところが最近、ナラ枯れが原因の「倒木や落枝注意」の看板が見受けられ、散策の危険性が高まっているといえます。

私は7年前まで務めていた会社で、飯能の社有林の管理を10年間にわたり従事しておりました。

2014年8月、毎日散策とごみ拾いをしていたボランティアの方からナラ枯れの木がある、根本にフラスが落ちているとの連絡がありました。

埼玉県の担当部局に調査依頼をしたところ、カシノナガキクイムシではなくヨシブエナガキクイムシであり、問題はあまりないのではないかとの回答でした。県の担当の一人は、新潟県の群馬県との境あたりがナラ枯れでたいへんだったが、今は新たな木に更新され青々しているとの話があり、ナラの木の自然淘汰と理解しました。昨年ごろから、（仮称）川越市森林公園計画地ではカシノナガキクイムシによるナラ枯れ多く発生し、対策作業が行われております。ナラ枯れにより景観が変わり、「倒木や落枝」の危険性が増しております。

黒田慶子教授の講演と内容の概要

2月2日午後に、三富地域農業振興協議会主催で「三富地域の平地林をナラ枯れから守るために」との演題で神戸大学農学部黒田慶子教授のお話がオンライン形式でありました。

「本来の里山は人が管理する若い林」で農用林として管理されてきたが、林が1950年代のエネ

ルギー革命で薪が石油に代わり、落ち葉（堆肥）が化学肥料に代わり、コナラ・クヌギの萌芽更新が行われず、高齢化・大径化した弱った木にカシノナガキクイムシが入り込み、一緒に病原菌が持ち込まれ、木を枯らす。ナラ枯れ対策のポイントは、萌芽更新か樹種の転換を図り、育った樹木を販売し土地所有者に経済的利益をもたらすようにすること。以上の内容でしたが、森林管理の業務を行っていた立場から見るとたいへん参考になる話でした。

おわりに

1960年ごろまでは、山持ちは大変裕福でしたが、今は、山は山持ちにとって負担となっております。森林は、災害防止、環境、健康等の多くの重要な機能を担っており、財政難の折りですが、公共事業として持続的な保全の推進を望むものです。

（菊地三生）



飯能市大字飯能 大径化したコナラ林と谷津田



左（仮称）川越市森林公園計画地

右 2014年8月 カシノナガキクイムシの調査

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと

(19) 川越の歴史、文化の再確認、そして…

川越を再確認し、情報を発信

私は昨年、小さな出版社「仙波書房」を起業。川越市仙波町出身ということで、「仙波」の地名を付けて命名し、出版活動を行っている。

記念すべき1冊目は、出身地である川越に存在する建物をテーマに企画検討を行った。起業前に知人と企画について相談する機会があり、その際に手厳しい言葉があった。それは、私が川越について勉強不足だということを強く指摘される。川越に30年住み、川越については熟知していたつもりであったが、実際のところ、何も知らないということを痛感した。

このことを契機に川越の歴史、文化を再確認するために、多くの資料を読み、多くの人に会う機会をつくり、積極的に川越を知るように自らを変える。調べた情報を元に、地元の人々の話を肉付けし、人々による経験が加わることで、情報はよりリアルに昇華していく。

人との出会いも、人が人を呼び、輪が広がっていくことを実感。

そして、今度は集めた情報をやさしく要約し、本にして発行。出版社として本の発行だけではなく、川越の建物本と連動したイラスト原画展、対談、街歩き、ツアーガイドなどを行うことで、さまざまなイベントでも集めた情報の発信を行う。そのような複合的な出版活動を現在も続けている。

「川越市環境行動計画」を一読

さて、図書館で平成29年川越市発行の「川越市環境行動計画」を手にとった。こちらには、様々な立場の方が共働で「みんなで作る自然・歴史・文化の調

和した人と環境にやさしいまち」の実現をめざし活動を行ってきたのが、「かわごえ環境ネット」と冒頭に記されている。

一読することで、「かわごえ環境ネット」の活動方向を再確認することができ、私は勘違いしていたことに気付く。

これまで参加してきた活動内容から、「自然共生」、「安全・安心」という環境目標に目が行きがちであった。しかし、私の行っている川越を調べ、川越の魅力をわかりやすく紹介するという出版社の活動も「地域づくり・人づくり」のテーマ内に「歴史と文化を生かした地域づくり」とあり、私も協力できることがあるかもしれないということを確認するよい機会にもなった。

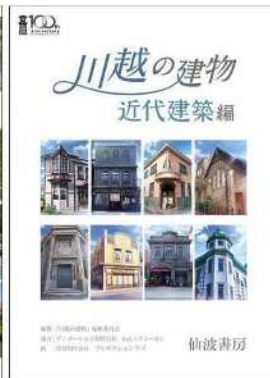
先ほどの「川越市環境行動計画」内には環境に配慮した行動（チェックシート）の項目があり、「地域の歴史や文化に興味を持つ」という項目も含まれている。川越の建物本を通し、建物の背景となる川越の歴史や文化を紹介することで、多くの人に建物、川越を知ってもらうことができる。

今後も会での活動に加え、出版活動を通し、川越の歴史・文化を発信する機会を多く提供し、川越市のよりよい環境づくりに貢献していきたい。

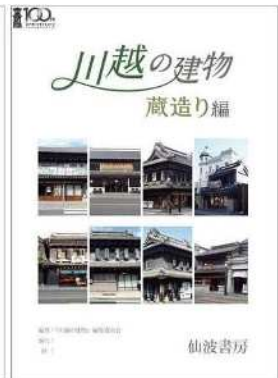
(神谷利一)



『川越市環境行動計画』
発行：川越市



『川越の建物 近代建築編』
発行：仙波書房 好評発売中



『川越の建物 蔵造り編』
発行：仙波書房 2022年夏発行

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと

(20) 意識改革が求められています

孫の誕生を通して考えてみました

「気候変動や資源の枯渇を懸念し子どもを望まない若者、欧米でじわり増加」子どもを出産することで二酸化炭素の排出量を増加させ、気候変動を悪化させてしまうことや、食料や水といった資源を乱用することを懸念してのこと。また、今よりも過酷な環境になり、子どもに苦勞させてしまうことを憂慮する声も多かったとありました。後者の考えは、私の周りからも聞こえて来ました。だからこそ子どもを産んで、環境問題の根本解決に動こう!という考えの人がいます。この考え方に、私は子どもたちの未来、未来の子どもたちに”美しい地球を!平和な世界を!!” と思って動き続けています。

近くはないので早くから里帰りになった娘。コロナ禍なので、ずっと別部屋での生活。多少光熱費・ガソリンの使用量は上がりました。

出産後は、混合栄養でミルクびんの煮沸に沐浴。おしめの枚数は新生児なので少ないけれど、洗濯は大人のものとは別洗い。近くで買えないものは宅配便で取り寄せる。光熱水費に輸送エネルギー、ごみの量も増えました。

娘のため、みんなのため欧米の若者の考えを娘に伝え、二人で話し合い。母乳が出るようやってみる。帰ったら自分たちのものといっしょに洗濯すると口にしました。母乳の量が増えて粉ミルクは1日1回になったよ。完全母乳はたいへんだと思ったけれど母乳が出るようになったら、楽だね〜とうれしそう。

自然に学ぶ・動物に学びましょう

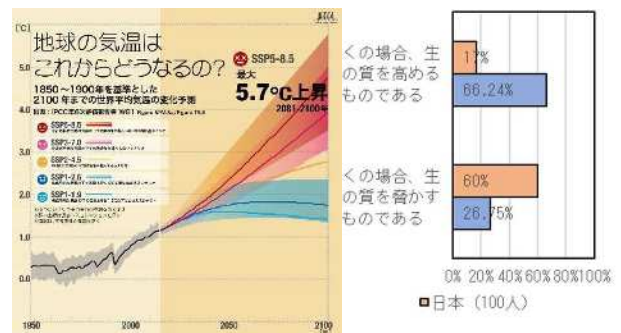
人間は自然界の一員です。”ヒト”は動物の一種です。悩んだら自然や動物に学ぶといい。感いは”自然”か”不自然”か考えてみればわかる。”自然”より自然(じねん)・天然か考えてみるといい、と

聞きました。

うれしい変化が続いています

子育て中のママが子どもたちと遊びに来ます。畑で虫採りしたり、野菜の収穫体験をして楽しんでます。彼女はプランターで3種類の夏野菜作りを始めました。

ある子育てサロンのおしゃべりのとき、”自然流”小児科医真弓定夫先生から学んだことを伝えています。寺尾調節池などのごみ拾い、医療生協川越東支部の方々も始めて来ています。木々が成長し青々と茂り、暑さを吹き飛ばしてくれそうです(びわ、桑、いちじく、めぐすり、ぶどう、緑のカーテンはパッションフルーツ、キウイなど、かんきつ類、りんご、なし)。(松岡壽賀子)



(左)世界平均気温の変化予測(観

測と予測) 出典) IPCC 第6次評価報告書/全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>)

(右)あなたにとって気候変動対策はどのようなものですか? 出典) World Wide Views on Climate and Energy (<http://climateandenergy.wwviews.org/results/>) 2015.6



我が家の庭の草木たち



【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと

(21) 脱炭素社会に向けて (3) 水素社会を考える

水素はどのようにして作られるのか

二酸化炭素を出さない車ということで、世界的にも EV（電気自動車）の売り上げが伸びている。しかしながら、充電する電気が石炭や石油を燃やして作られたものであれば、発電段階で二酸化炭素をまき散らしており、全く意味がない。同様に、水素を燃やしても水しか生成せず、クリーンなエネルギーと言えるが、製造段階ではどうであろうか。トヨタでは燃料電池車（MIRAI）を販売し、水素社会の足掛かりをつかもうとしている。これらの水素はどこから来るのであろうか。

水素には「グリーン水素」「グレー水素」「ブルー水素」と呼ばれる3種類がある。太陽光・風力発電等の再生エネルギーで水を電気分解して取り出したのが「グリーン水素」、化石燃料から改質・ガス化によって取り出したのが「グレー水素」で、製造工程で二酸化炭素が発生する。この二酸化炭素を CCS（二酸化炭素回収・貯留）技術と組み合わせるのが「ブルー水素」である。

2021年10月に正式に閣議決定された「第6次エネルギー基本計画」の中でも2030年の電源構成で石炭火力が19%も占める。海外からの批判に対し、水素やアンモニアを混焼させ、二酸化炭素排出量を減らす等の緩和策を提唱しているが、全く実効性のない言い訳である。元々、高効率な石炭火力発電でも二酸化炭素の発生量は、天然ガス発電の2倍もある。仮に、水素を20%混焼（約350億kWh分の電力）しようとするれば、254億m³（230万トン）の水素が必要となる。これを水の電気分解で作ろうとするれば、必要となる電力は約900億kWhと計算される。これは、2030年に想定される総電力量の10%弱に相当する。まして、将来的には、石炭火力発電全体を水素やアンモニアで代替するような意見も聞かれるが、絵に描い

た餅としか言いようがない。確かに、太陽光・風力発電で生ずる余剰電力を水素として貯めておくとのアイデアはあるが、貴重な「グリーン水素」は燃料電池車や合成燃料等の有効な使い方をすべきと思料する。

また、「グリーン水素」「ブルー水素」を海外から輸入する動きも活発で、ENEOS や商社各社がオーストラリアやサウジアラビア等から水素を運ぶ計画はあるが、水素を液化するには、-253℃（LNG は-163℃）の極低温が必要なため経済的に不利とされており、トルエンの水素化で MCH（メチルシクロヘキサン）に転換し、タンカーで日本に運んでから消費地で水素を取り出すことが計画されている。日本では二酸化炭素を貯留する CCS の適地は少ないと言われているが、海外での天然ガス採掘跡地では比較的容易に貯留でき、ブルー水素の生産に適しているとされる。

水素価格は下がるのか

水素価格は現行 100 円/N m³ であるが、経済産業省は 2030 年に 30 円/N m³、2050 年に 20 円/N m³ を目標にしている。しかも、2050 年の水素需要量を 2000 万トン/年としている。現在、日本が輸入する LNG（液化天然ガス）は約 7500 万トンであることからして、いかに安く多量の水素を確保するか、戦略的構想を持つことが重要である。

最近のニュースで、アラブ首長国連邦（UAE）が建設するギガソーラ（2GW）の電気は 1.35 米セント（1.8 円）/kWh と報道された。この電気を使えば、20 円/N m³ のグリーン水素も夢ではない。しかしながら、輸入・輸送コストをいかに下げることが次なる課題となり、水素は付加価値の高い使い方重点を絞ったビジョンを持つべきと考える。

（宮崎誠）

【社会環境部会コラム】かわごえ環境 STYLE (8)

(8) koloro farm とサニーサイドテラス

川越の地で信念を持って農業に従事し、それを消費者に届けようとする店舗の連携事例と紹介します。川越市中老袋の地で、こだわりの野菜を作っているのが、「koloro farm (コロロファーム)」さんです。

『私たちは、川越市中老袋の地で代々農業に携わりながら、5年ほど前から自分たちの野菜を作りはじめました。少しずつ畑を広げ、スタンダードな野菜を作っていますが、変わった西洋野菜も作っていきこうと思っています。栽培期間中は農薬や化成肥料を使わずに野菜を作っています。』

「koloro (コロロ)」はエスペラント語で色という意味です。彩りのある畑に出来たらとこの名称にしました。koloro farm は女性農家二人によるユニット名です。

koloro farm の畑がある川越市中老袋は、入間川に架かる入間大橋周辺にある地域で市内北東部の芳野地区にあります。中老袋は古くから農業の地域で、もちろん今でも変わらずに農業の地域であり続けています。入間川沿い、この地で17代 (!) 農業を営んでいる新井家。中老袋は昔から米作りが盛んですが、実は、酪農も盛んに行われていた地域で、この地域だけでも数軒の酪農家がありました。という新井さんもかつては酪農家でもありました。新井さんは今までの農業とはやり方を変えたいと、埼玉県小川町の金子美登さんの霜里農場に定期的に研修に通っています。

川越では、川越 Farmer's Market などのイベントにも時期により参加しています。川越で特にこだわりの素材を求めている飲食店などからの要望もあり、koloro farm さんは、これから川越で積極的に農産物を展開していきます。また、一番街の旧埼玉りそな銀行向かい路地を入ったところにある、「ベトナム小粋雑貨 sunny side terrace」

さんで毎月行われているマルシェでも koloro farm のお野菜が出品され定着してきました。販売される野菜は時季により変わりますが、茄子、ピーマン、オクラ、人参、じゃがいも、バジルなどが好評を博しています。こつこつと。川越で頑張る農家のこだわりお野菜を、お店で手に入る環境が作られています。地元の良いものと地元で手に入れる。koloro farm の彩りある野菜をぜひ。

(石川真)

「ベトナム小粋雑貨 sunny side terrace (サニーサイドテラス)」

川越市幸町3-15

通常営業時間：11:00~18:30

定休日：月曜日、火曜日

049-226-2908

info@sunny-side-terrace.com



中老袋の koloro farm



サニーサイドテラスの店頭で野菜販売

8 エコアクション21の取得推進

「エコアクション21」は、環境省が策定した環境経営の認証・登録制度です。環境に配慮した経営に取り組む企業に対し「認証」を与えるとともに、環境への取組強化を通じて、コスト削減、業務改善、従業員の意識改革、組織の活性化など経営力の持続的な向上を支援する「企業価値向上ツール」としても位置付けられています。

川越市では、「第三次川越市地球温暖化対策実行(区域施策編)」において、事業所における温室効果ガス排出削減に向けた施策として、環境経営の普及促進を掲げており、その一環として「エコアクション21」の取組を推進しています。

市では、平成21年度からエコアクション21の認証取得を支援する研修会を開催しており、令和4年度までに、20事業者がこの研修会を通して認証を取得しました。



▲エコアクション21ロゴマーク



研修会の様子

9 川越環境保全連絡協議会の令和4年度事業報告

I. 環境保全に関する事業実施

1. 県外環境保全対策先進企業視察研修会

2022年6月17日(金)・18日(土)

定員に満たないため中止

2. 県内事業所視察研修会

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

3. 2022かわごえ産業フェスタ

日時 2022年11月26日(土)・27日(日)

場所 ウェスタ川越(交流広場・多目的ホール他)

- 内容 (1) 川越環境保全連絡協議会活動内容・会員企業紹介
(2) 会員企業(5社)が取り組む環境保全活動の紹介
(3) 展示物(5社)
(4) アンケート調査の実施

4. 環境小江戸塾

日 時 2022年8月3日(水) 午後3時~午後4時30分

場 所 ウェスタ川越 活動室

参加者 40名

演 題 「環境経営・SDGsセミナー」

講 師 中口 毅博 氏 (芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科教授)

<事例発表者>

● 新報国 マテリアル (株) 金井 学 氏

● パイオニア (株) 辰野 聡彦 氏

5. 2023 新春講演会

2023年2月10日(金) 大雪のため中止

II. 諸会議

1. 定 期 総 会

日 時 2022年5月27日(金) 午後4時

場 所 ラ・ボア・ラクテ

出席数 本人出席19名・委任出席50名 計69名

議 事 ・2021年度事業報告並びに収支決算承認の件 会計監査報告
・2022年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

2. 理 事 会

日 時 2022年4月22日(金) 午後3時

場 所 川越商工会議所 会議室

議 事 ・定期総会について
・委員会別事業計画について
・50周年記念事業について

日 時 2022年7月8日(金) 午後3時

場 所 川越商工会議所 会議室

議 事 ・2022年度の活動スケジュール(案)について
・県外視察研修会(延期)について
・小江戸塾開催について
・かわごえ産業フェスタ開催日程について
・50周年記念事業について

日 時 2022年9月2日(金) 午後3時
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・環境小江戸塾の反省会について
・視察研修会の進捗状況について
・かわごえ産業フェスタについて
・50周年記念事業について

日 時 2022年10月7日(金) 午後3時
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・かわごえ産業フェスタについて
・新春講演会について
・50周年記念事業について

日 時 2022年11月11日(金) 午後3時
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・かわごえ産業フェスタについて
・新春講演会について
・50周年記念事業について

日 時 2023年1月20日(金) 午後3時
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・役員改選について
・かわごえ産業フェスタ反省会について
・新春講演会について
・50周年記念事業について

日 時 2023年3月10日(金) 午後3時
場 所 川越商工会議所 会議室
議 事 ・新春講演会について
・定期総会について
・事業報告、計画(案)について
・50周年記念事業について
・埼玉県環境連総会について

3. 小 委 員 会

○総務広報小委員会

日 時 2022年4月22日(金) 午後2時

日 時 2023年1月20日(金) 午後1時30分

日 時 2023年3月10日(金) 午後1時30分

○50周年記念事業小委員会

日 時	2022年 9月 2日 (金)	午後2時30分
日 時	2022年10月 7日 (金)	午後2時30分
日 時	2022年11月11日 (金)	午後2時30分
日 時	2023年 1月20日 (金)	午後2時30分
日 時	2023年 3月10日 (金)	午後2時15分

Ⅲ. 環境保全に関する資料の収集及び提供について

1. 埼玉県環境部環境政策課発行の埼玉県環境白書の配布
2. 埼玉県環境検査研究協会の環境ニュースの配布
3. 広報かわごえ環境ネット配布

Ⅳ. 埼玉県環境保全連絡協議会関係

1. 通 常 総 会

日 時	2022年5月13日 (金)	午後3時
場 所	パレスホテル大宮 銀杏	
議 事	・2021年度事業報告及び決算について ・2022年度事業計画(案)及び予算(案)について ・環境保全功労者及び環境保全優良事業所表彰式 ・渡邊 政紀 ・株式会社 丸広百貨店	

2. 理 事 会

日 時	2023年1月24日 (火)	午後2時
場 所	埼玉会館 会議室	
議 事	・2022年度事業中間報告について ・環境保全功労者(環境保全優良事業所)表彰の推薦について ・環境保全懇談会	

日 時	2023年3月24日 (金)	午後2時
場 所	埼玉会館 会議室	
議 事	・環境行政意見交換会 ・2022年度事業報告(案)2023年度事業計画(案)について ・環境保全功労者及び環境保全優良事業者の表彰について	

3. 視察研修会

2022年9月8日(木)

受入先より新型コロナウイルス感染症対策のため中止連絡